

2019年度 生食モモ

川中島 白桃	発芽 3.24	展葉 4.20	開花始 4.24	満開 4.27	落花 5.5	硬核始 6.中	硬核 7.上	収穫盛 8.31
-----------	------------	------------	-------------	------------	-----------	------------	-----------	-------------

園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
3月下旬 (発芽前まで)	モモアカアブラムシ 縮葉病 せん孔細菌病 越冬病害虫	1. ハーベストオイル 2. トレノックスフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤を使用する場合) 50倍(2ℓ) 500倍(200cc) 10倍(10ℓ)	発芽前 7日前まで 発芽前	- 5回以内 -	300ℓ	1. 縮葉病防除の最も重要な時期なので、発芽前に遅れないように必ず散布する。散布ムラのため発芽することが多いので枝先までむらなく散布する。 2. トレノックスフロアブルに代えて、オキシンドー水和剤 80 1,000倍(発芽前～開花直前まで、5回以内)でもよい。 3. 石灰硫黄合剤の散布できない園では、カイガラムシ類幼虫対策として、アブロードフロアブル1,000倍(14日前まで、3回以内)を加用する。	/		
4月下旬	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置				詳細は2ページを参照			
4月中～下旬 (開花直前)	せん孔細菌病	1. ハイテンパワー(展着剤) 2. ICボルドー412	1万倍(10cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	300ℓ	1. せん孔細菌病対策として開花直前に必ず散布する。	/		
せん孔細菌病対策についてはp10の果樹の耕種的・物理的防除技術一覧を参照する。										
5月上旬 (落花直後)	灰星病、うどんこ病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ハマキムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2. マイコシールド 3. フェニックスフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 4,000倍(25cc)	前日まで 21日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 2回以内	300ℓ	1. マイコシールドは、もも・すもも・おうとう以外に登録がないので飛散させない。 2. 耐性菌出現防止のため、抗生物質の連用は避ける。	/		
5月中旬	灰星病 せん孔細菌病 アブラムシ類	1. トレノックスフロアブル 2. ウララDF	500倍(200cc) 2,000倍(50g)	7日前まで 14日前まで	5回以内 2回以内	300ℓ	1. コガネムシ類成虫が発生した場合、ウララDFに代えてモスピラン顆粒水溶性 2,000倍(前日まで 3回以内)を散布する。ただし、殺虫剤解禁後とする。	/		
状況 5月中～下旬	コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置				広域的に設置する。 詳細は2ページを参照	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月下旬	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 カメムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カイガラムシ類幼虫	1. デランフロアブル 2. テルスターフロアブル*1 3. アブロードフロアブル 4. (バイカルティ)*2	600倍(166.6cc) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで 14日前まで -	4回以内 2回以内 3回以内 -	300ℓ	1. デランフロアブルはラ・フランスの登録は1,000倍なので飛散に注意する。又、アブローチBIなどの浸透性展着剤を加用すると葉害が発生する場合がありますので加用しない。 2. おうとうの収穫が終わるまで飛散させない。 3. 心折れ(ナシヒメシンクイ)の被害は見つけ次第除去し処分する。 4. デランフロアブルは、散布時間により、果実に汚れが出る場合があるので、乾きやすい時間に散布する。 5. 殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。	/		
6月上旬	せん孔細菌病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. マイコシールド 2. ダントツ水溶性 3. (バイカルティ)*2	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	21日前まで 7日前まで -	5回以内 3回以内 -	400ℓ		/		
6月中旬	黒星病 灰星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 ハダニ類	1. デランフロアブル 2. スカウトフロアブル*1 3. ダニコングフロアブル 4. (バイカルティ)*2	600倍(166.6cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	7日前まで 前日まで 前日まで -	4回以内 5回以内 1回 -	400ℓ		/		
6月下旬 ～7月上旬	せん孔細菌病 灰星病 黒星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. トレノックスフロアブル 2. ディアナWDG	500倍(200cc) 1万倍(10g)	7日前まで 前日まで	5回以内 2回以内	400ℓ	1. トレノックスフロアブルはおうとうに21日前までの登録なので、飛散させない。	/		
7月中旬	灰星病 ホモプシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カイガラムシ類 ハダニ類	1. オーシャイン水和剤 2. モスピラン顆粒水溶性 3. ダニゲッターフロアブル 4. (バイカルティ)*2	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 1回 -	400ℓ	1. ダニゲッターフロアブルは、おうとうでは新梢伸長期に葉害のおそれがある。なしては新梢伸長期や有機リン剤との混用、10日以内の近接散布では新葉に葉害のおそれがある。又、開花期の水稲に不稔の葉害を生じる場合があり、飛散させない。 2. ベルコートフロアブルは、缶桃種、ル レクチエに葉害のおそれがあるので飛散させない。 3. 缶桃種園では、ベルコートフロアブルに代えて、パレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)を使用する。 4. せん孔細菌病が発生した場合、バリダシン液剤 5 500倍(7日前まで、4回以内)を単用散布する。ただし、他樹種に飛散させない。	/		
7月下旬	灰星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. ベルコートフロアブル 2. ディアナWDG 3. (バイカルティ)*2	1,500倍(66.6cc) 1万倍(10g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	3回以内 2回以内 -	400ℓ		/		
8月上～中旬	灰星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ (クワコナカイガラムシ若齢幼虫) (ハダニ類)	1. オンリーワンフロアブル 2. スタークル顆粒水溶性 3. (バイカルティ)*2	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで -	3回以内 3回以内 -	400ℓ	1. クワコナカイガラムシ若齢成虫が見られる園ではスタークル顆粒水溶性に代えてダイアジノン水和剤34(前日まで、4回以内)1,000倍を加用する。 2. ハダニ類のみ見られる園はマイトコーネフロアブル(前日まで、1回)1,000倍を加用する。	/		
8月下旬	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ ハマキムシ類・シンクイムシ類	1. ナリアWDG 2. エクシレルSE	2,000倍(50g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ	1. ナリアWDGはル レクチエの果実や、ピオーネの葉に葉害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫前に除袋する品種は、除袋直後に灰星病防除を行う。	/		
9月上旬	灰星病 シンクイムシ類	1. ロブラール500アクア 2. アーデントフロアブル*1	1,500倍(66.6cc) 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	400ℓ	1. 収穫の終わった樹には、ナシヒメシンクイ対策として、スミチオン乳剤 1,000倍(3日前まで、6回以内)を散布する。ただし、他樹種に飛散させない。	/		
9月中旬 (晩生種のみ)	灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. ナリアWDG 2. エクシレルSE	2,000倍(50g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	2回以内 3回以内	400ℓ		/		
状況 9月中～ 10月中旬	コスカシバ	1. トラサイドA乳剤	200倍(500cc)	収穫後～ 発芽前	1回	400ℓ	1. コスカシバの多い園は、収穫後飛散に注意して樹幹部にのみ散布する(単用)。樹幹処理は年間1回までなので注意する。	/		
9月中旬 (収穫後)	せん孔細菌病 モモハモグリガ ハマキムシ類 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412 3. スミチオン乳剤 1. ICボルドー412 2. ダントツ水溶性	1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg) 1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg) 2,000倍(50g)	- - 3日前まで - 7日前まで	- - 6回以内 - 3回以内	400ℓ	1. 多品種により散布ができない場合、収穫した樹にできるだけ早く手散布にて対応する。 2. 次年度のせん孔細菌病対策としてICボルドーは2週間間隔で必ず2回以上散布する。 3. 収穫後、取り残した灰星病の被害果や結束縄などを集めて処分する。 4. ICボルドー412にスミチオン乳剤を加用後、直ちに散布する。 5. ICボルドー412は、隣接する作物に付着すると汚れるので注意する。	/		
10月上旬	せん孔細菌病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	400ℓ		/		
落葉直前	せん孔細菌病	1. アピオン-E(展着剤) 2. ICボルドー412	1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg)	- -	- -	400ℓ		/		
休眠期	越冬病害虫	1. 石灰硫黄合剤	7倍(14ℓ)	発芽前	-	400ℓ	1. 越冬病害虫対策と樹体保護の為に散布する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

*1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 *2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

生食モモ